

今週（10月1日から10月5日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週初1日にTB3Mの発行・償還、2Y発行の不足要因があったものの、落ち着いた取引状況で始まった。しかし、消費税・法人税揚げ、年金保険料揚げ、10年債発行等の大幅不足要因があった3日頃から資金調達意欲が強まり、週後半の無担保コールO/N物のレートは若干上昇した。無担保コールO/Nの取引レートは、地銀業態は▲0.075～▲0.02%の幅広いレンジで、都銀・信託・証券業態は▲0.086～▲0.065%となった。ターム物に関しては、散発的に、▲0.03～0.001%の出会いが見られていた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは5日に2W物・8,000億円がオファーされ、1,403億円（期落ち額2,142億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、概ね▲0.120～▲0.090%程度のレンジで推移した。週初1日のGCT/Nは、▲0.105～▲0.100%程度の水準で推移。10Y新発債発行日の取引となる2日のT/Nは、▲0.100～▲0.090%程度にレート上昇。国債買入オペの実施された3日は▲0.110～▲0.095%程度にやや低下。翌4日のT/Nは▲0.120～▲0.100%程度。5日のT/Nは▲0.110～▲0.105%程度で推移した。

SCは個別銘柄では5Y135～136、10Y338～351、20Y164～165、30Y58～59等に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、今後の短国買入オペが日程・量共に不透明な中、全般的に閑散となり、償還日が年末越えとなる3M物に限って強含む展開となった。

2日に実施された短国買入オペは、レートが低水準で推移している事が考慮されてか、1,000億円と少額でオファーされた。平均落札利回較差+0.005%、按分落札利回較差+0.004%と小甘い結果となった。

5日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.25%から▲0.28%に買い進まれる展開となる中、平均落札利回▲0.2847%、按分落札利回▲0.2679%とWI取引を反映して、引き続き低いレート水準での決着となった。入札後の取引ではショートカバーからか、一時▲0.45%の出会いも見られた。

●CP市場

今週のCP市場は、償還総額2,800億円程度に対して、発行総額は1兆円程度と、9月末に残高を調整した企業の大型案件が連日見られるなど、月初ながら発行超のマーケットとなった。市場残高は、9月末に15兆9,960億円まで減少したものの、既に4日時点で17兆4,050億円と、月初から1兆4,000億円程度増加している。ただ、今のところ銘柄に広がりは見られず、月末に向けて更に発行再開の動きが活発化してくると思われる。発行レートは、玉不足感が9月末ほどではなく、概ね0%近辺とやや上昇傾向となっているが、一部の発行残高の少ない銘柄については浅いマイナス圏での発行も見られた。

4日に、CP等買入オペが前回（9月25日）から3,000億円減額の2,000億円でオファーされた。オファー額減額を受けて、按分落札レート▲0.004% 平均落札レート0.000%と前回（按分▲0.015% 平均▲0.009%）比で大幅に上昇する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/1 (月)	24,245.76	0.125	113.90	△ 0.063	△ 0.103	3,931,500
10/2 (火)	24,270.62	0.135	113.94	△ 0.062	△ 0.104	3,922,700
10/3 (水)	24,110.96	0.135	113.60	△ 0.060	△ 0.103	3,863,100
10/4 (木)	23,975.62	0.155	114.40	△ 0.057	△ 0.106	3,874,400
10/5 (金)	23,783.72	0.145	114.09	△ 0.051	△ 0.106	3,867,600

来週（10月9日から10月12日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
10/8 (月)	体育の日			米国祝日(Columbus Day)
10/9 (火)	9月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 8月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50)	TB6M 23,000億円 10/10発行		
10/10 (水)	8月の機械受注統計(内閣府 8:50)	交付税借入 10,500億円 10/19借入		8月の米卸売売上高 9月の米生産者物価指数
10/11 (木)	秋田県金融経済懇談会にて櫻井審議委員講演 9月の企業物価指数(日銀 8:50) 8月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB2M 発行中止	30Y 7,000億円 10/12発行	9月の米財政収支 9月の米消費者物価指数
10/12 (金)	9月のマネーストック(日銀 8:50) 8月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB3M 42,800億円 10/15発行	エネルギー 対策借入 6,500億円 10/22借入	10月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/8 (月)	体育の日								
10/9 (火)	1,000	▲ 1,300	▲ 300	国債買入 全店共通 CP買入 国債補完	▲ 2,100 ▲ 200 2,600	2,700 1,400	4,400	4,100	TB3M発行▲43000償還39000
10/10 (水)	1,000	1,000	2,000	CP買入		2,000	2,000	4,000	TB6M発行▲23000償還21100
10/11 (木)	1,000	2,000	3,000				0	3,000	交付税借入▲10500期日10500
10/12 (金)	0	▲ 6,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	源泉税揚げ 社会保障の払い 30Y発行▲7000
週間合計	3,000	▲ 4,300	▲ 1,300	—	300	6,100	6,400	5,100	

10/9は日銀予想、10/10以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、9日・10日に短国発行、12日に源泉税揚げ・30年債発行に伴う不足日が見込まれる。無担保コールO/N加重平均レートは積み最終日に向け、若干上昇することが見込まれる。レポ市場は、投資家の動向次第であるが、▲0.110～▲0.090%程度の、前週と横ばい圏内でのレート推移を予想する。短国市場は、9日に6M物、12日に3M物の入札が実施予定となっており、レート水準が注目される。また、短国買入オペの実施日やオファー金額にも注目したい。CP市場は、今週同様に期末に一旦残高を調整した先からの発行再開の動きが続くと見られ、発行超のマーケットが予想される。CP等買入オペのレート上昇を受けて、市場レートがどの程度上昇するのかが注目される。

主要なイベントとしては、国内では10日に「8月の機械受注統計」、海外では11日に「9月の米消費者物価指数」などが予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお選する書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入